

提案のねらい “再び人と水が寄り添うまちに”

文化的景観。大地に創られた人間のいのちのかたち。水路が生活に欠かせなかった時代、人と水は常に寄り添い、離れることはなかった。



SITE RESEARCH

対象地概要

滋賀県東近江市伊庭町は琵琶湖の内湖沿岸に位置し、町中を水路が縦横に巡る水郷集落である。昔は農業や家事など生業の中心を担っていた水路であるが、今日その利用は減少し、本来人々の生活と共に在り人々の活動が現れるはずの「文化的な」水郷風景が、単なる過去と水の清澄さを感じるのみの水路景観と化している。



水路網の変遷

明治の水路網では伊庭川から枝分かれした水路が集落の細部まで水運を担っていたと考えられ、水路沿いに設置されたカワトと呼ばれる石積の階段で飲み水を取人や炊事、洗濯をする人、水遊びをする子どもの風景が溢れていた。しかし、上下水道の整備や自動車の普及といった社会構造、ライフスタイルの変化に伴い、次第に水路が埋められ、狭められていった。現在残っている水路は比較的大きな水路であり、細い水路や狭小路型の水路が埋められたと考えられる。



水利用の変遷

「上水→交通路→農業用水→排水路」の順に水路網の役割が減少し昭和30年代に田舟が使われなくなった水路が埋められた。

Table showing the evolution of water usage from pre-war to post-war, categorized by function (drinking water, waste disposal, agriculture, etc.) and time period.

住民意識調査と景観資源マップの作成

住民のみを対象にしたWSや他地域の住民と交流したWSを行い、伊庭に住む人の意識や外から見た伊庭の魅力を抽出した。また、かつては一般に存在し、農作業や漁労へ向う際の移動手段として利用されていた田舟の週上光景を再現することで、景観資源の可視化を試みた。各WSで景観資源マップを作成し、これらの活動から伊庭に潜む課題を「水路の活用」「カワトの趣を大切に」「古い石垣を残す」「歴史を伝える」に大別し、整理した。



伊庭八景の選定

発掘した景観資源の中から住民の思いが強いもの、思い出や将来像といった物語が豊富なものを選び伊庭八景の候補地とし、住民投票で伊庭八景を選んでもらった。さらに八景候補地の中から具体的な修景や将来像が描ける場所(わたしの選ぶ未来の一景)をWSで議論し、投票で選ばれた八景と「わたしの選ぶ一景」で決選投票を行い、最終的な伊庭八景を選定した。



重点整備地区の選定

住民による自主的な保全・修景活動の意思がワークショップの中で読み取れ、かつ、住民の重視する歴史的価値のある場所または個人の思い出や記憶とともにその風景が語られる場所をマッピングした。回遊ルートはなるべく水路沿いを通り、修景エリアをめぐるような道を選定した。



石垣・カワト調査

水路を構成する護岸カワトの調査を行った。護岸は石垣・鉄・板石・コンクリート・土・ブロック石で分類、カワトは石・金属・コンクリートで分類した。調査の結果を右図にプロットしている。多くの石垣が存在する一方で、コンクリートや金属に変わってしまっている箇所が目立つ。残存する数少ない石製のカワトは大部分が埋められていた。道路沿いではコンクリートや金属製のものが特に多く見られ、カワト自体が住民に使われている様子は見られなかった。



1. 生活利用の伴わない文化的景観. Text explaining the problem of cultural landscapes without daily use, and a diagram showing the relationship between residents and the waterway.

2. まちづくりへの住民参加の偏り. Text discussing the bias in resident participation, and a diagram showing the reasons for this bias.

CONCEPT. セミパブリックライフ ~水路と親しい新たなライフスタイルの形成~. Diagram showing the concept of semi-public life and the formation of a new lifestyle centered on waterways.

DIAGRAM. Diagram showing the transition from current to future waterway usage, from private to semi-public space, and the role of waterways in daily life.

人と水路のまち・伊庭の新しいライフスタイル：ある休日を例に



新ライフスタイル 定着に向けて 1 修景デザインの提案 —セミパブリックな空間として、「私」が使う水路へ。

Proposals for landscape design to create semi-public spaces. Includes sections on multi-generational gathering, pedestrian paths, postboxes, and the restoration of stone walls and Kawato.

新ライフスタイル 定着に向けて 2 水路パルの開催 —まちなかにある空間の私的利用可能性を共有する。

Proposal for the 'Waterway Bar' event to share private use possibilities of urban spaces. Includes an event map, program details, and a 3D visualization of the event space.